

世界に、
歓びと感動を



1892（明治25）年の創業以来、
乃村工芸社グループは歓びと感動を追い続けてまいりました。

お客様の事業繁栄とそこに集うエンドユーザーである皆さまに
夢やときめきをお届けすること—

すなわち、時代を彩るクリエイティブ力と乃村工芸社グループ全社の総合力による
空間創造事業と空間にぎわいをもたらす空間活性化事業が私たちの仕事です。

常にお客様のベストパートナーであるために
乃村工芸社グループはお客様の課題解決につながる新たな価値を創造し、
“場”の魅力を最大限に高めるチャレンジを続けてまいります。

株式会社 **乃村工芸社**
本社 東京都港区台場2-3-4 TEL:03-5962-1171 (代表)



IDM
TOKYO 2018
Interior Design Meeting

Design Reboot

It is not about a reset.
It is rather the awakening of people's consciousness.
Recall the memories of the people
who build the Japanese interior industry
and succeed to the next generation.
Preserve the ancient wisdom and
project it onto our future life.
It is time to awaken ourselves once again
as we will now begin the new journey.

2018年 秋、
インテリア界の先駆者が
一堂に集結する。

デザ
イン
再
起
動
。

インテリア関連25団体が集まる史上初のイベント



デザイン再起動。開催

開催概要

- 名称 IDM TOKYO 2018
- 日時 11月30日(金)～12月2日(日) 11:00～20:00
- セミナー 11月30日(金)
 - ▶ 13:00～13:45 IDM / Interior Design Meeting
 - ▶ 14:00～14:45 JAFICA / (一社)日本フリーランスインテリアコーディネーター協会
 - ▶ 15:00～15:45 icon / (一社)日本インテリアコーディネーター協会
 - ▶ 16:00～16:45 (一社)日本パステック協会
 - ▶ 17:00～17:45 JCD / (一社)日本商環境デザイン協会
 - ▶ 18:00～18:45 JIPAT / (一社)東京インテリアプランナー協会
- 交流会 12月1日(土) 18:30～21:40 於:スパイラルガーデン&カフェ 自由参加、チケット共通 ¥5,000/人(3ドリンク付き)
 - ▶ 18:30～20:30 【第一部】「つながる」交流会
 - ▶ 20:30～21:40 【第二部】IDM 2018 “the NIGHT”
交流会内にて「IDM TOKYO 2018 AWARD」受賞者発表!
- 会場 スパイラルガーデン
- 住所 東京都港区南青山5丁目6番23号
- 主催 IDM TOKYO 2018 実行委員会 (事務局連絡先: idm-tokyo@jipa-official.org)

IDM TOKYO 2018 AWARD

- 賞 IDM大賞(1点) / 優秀賞(各ZONEより1点ずつ、計3点) / 入賞(各ZONEより1点ずつ、計3点) 合計7点
- 審査 12/1 スパイラルガーデンにて
- 表彰 12/1 交流会内にて
- 審査委員長 飯島直樹(JCD)
- 審査員 窪田茂(JCD 理事長) / 橋本夕紀夫(インスレーション監修) / 丹羽浩之(JID 理事長) / 高橋正明(JCD)

About IDM TOKYO 2018

様々な目的や指針を持つ、インテリア関連団体(現在25団体)が、ゆるい連携をし、団体間の相互理解、協力、交流を図る中で、インテリア領域の重要性を社会に発信し、社会資産を造るプロとしての立場を確立するために発足した新しい動きです。具体的な活動として交流会、セミナー、シンポジウム、教育機関との連携、アライアンス事業、デザイン展開催等を計画しています。

昨年度は、交流を深めるために、キックオフイベントとして、各団体参加の9つのセミナーと交流会を開催しました。

多くの参加者で大盛況、感心の高さを感じました。

今回は、IDM TOKYO 2018 として、

展示会、セミナー、交流会を、スパイラルガーデンにて、11月30日から12月2日まで開催予定です。

これからのIDMの活動に、皆様、ご注目ください。

参加関連団体リスト

- 主 催 IDM 実行委員会「IDM TOKYO 2018」
- 主 管 一般社団法人 日本インテリアプランナー協会
- 協 力
 - 一般社団法人 日本商環境デザイン協会
 - 一般社団法人 日本フリーランスインテリアコーディネーター協会
 - 一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会
 - 一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
 - 一般社団法人 国際建材・設備産業協会
 - 一般社団法人 インテリアスタイリング協会
- 後 援
 - 公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会
 - 一般社団法人 日本インテリア設計士協会
 - 一般社団法人 日本空間デザイン協会
 - 一般社団法人 日本商業施設士会
 - 一般社団法人 日本パステック協会
 - 一般社団法人 日本インテリアファブリックス協会
 - 日本インテリア学会
 - 公益社団法人 インテリア産業協会
 - 一般社団法人 東京建築士会
 - 公益社団法人 建築技術教育普及センター
 - 公益社団法人 商業施設技術団体連合会
 - 一般社団法人 住宅リフォーム推進協議会
 - 英国インテリアデザイン協会 日本支部
 - 専門学校東京テクニカルカレッジ
 - 公益社団法人 日本サインデザイン協会
 - 一般社団法人 日本テキスタイルデザイン協会
 - 一般社団法人 日本住宅リフォーム産業協会
 - 学校法人原宿学園 東京デザイン専門学校



日本におけるインテリア関連団体の変遷

■ 同時開催: IPA、IPC 事業は、公益財団法人 建築技術教育普及センターからの助成を受けています。

- 1952 日本建築士会解散、日本建築士会連合会設立
- 1956 日本建築士会が日本建築設計監理協会を経て日本建築家協会(JIA)設立
- 1957 日本室内装備設計士協会(現:日本インテリア設計士協会: SJIT)設立
- 1958 日本室内設計家協会(現:日本インテリアデザイナー協会: JID)設立
- 1959 日本店舗設計家協会(現:日本商業環境デザイン協会: JCD)設立
- 1965 日本サインデザイナー協会(現:日本サインデザイン協会: SDA)設立
- 1969 日本インテリアデザイナー協会(現:日本空間デザイン協会: DSA)設立
- 1974 日本ディスプレイデザイン協会(現:日本空間デザイン協会: DSA)設立
- 1976 商業施設技術団体連合会(J-TOCS)設立
- 1978 インテリア産業協議会(現:インテリア産業協会)設立 (IC 試験実施機関)
- 1983 建築技術教育普及センター(JAEC)設立、自治体の建築士審査会の業務を統合し実施・管理する機関として設立
- 1983 日本住宅リフォーム産業協会(JERCO)設立
- 1989 日本インテリア学会(IASIS)設立
- 1990 日本フリーランスインテリアコーディネーター協会(JAFICA)設立
- 1991 インテリアプランナー地域協会が各地で設立
- 1992 インテリアファブリックス協会(NIF)設立
- 1995 日本テキスタイルデザイン協会(TDA)設立
- 1996 日本デザインコンサルタント協会(IDCA)設立
- 1998 日本インテリアプランナー協会(JIPA)設立、地域 IP 協会の全国連合組織として発足
- 2000 住宅リフォーム推進協議会(リ推進)設立
- 2001 インテリアのプロと企業をつなぐ「IPEC21」第一回開催
- 2006 日本商業施設士会(JCA)設立
- 2006 国際建材・設備産業協会(BMP)設立
- 2012 日本インテリアコーディネーター協会(icon)設立
- 2012 日本パステック協会 設立
- 2014 日本国際照明デザイナーズ協会(IALD JAPAN)設立
- 2017 インテリアスタイリング協会(ISA)設立
- 2018 英国インテリアデザイナー協会日本支部(BIID JAPAN)設立

対
conversation
談

IDM TOKYO 2018開催にあたって、その母体となったIDM (Interior Design Meeting) の発起人である、霜野隆氏 (一般社団法人日本インテリアプランナー協会会長) と飯島直樹氏 (一般社団法人日本商環境デザイン協会理事) にその思いを伺った。対談にあたっては、世界最大級の家づくりとインテリアデザインのプラットフォームHouzz Japan株式会社代表取締役の加藤愛子氏に加わって頂き、専門家と消費者双方の視点から見た今後のインテリアデザインについても話を広げて頂いた。

加藤 (以下:K) 今日はよろしくお願ひ致します。IDM TOKYO 2018初開催、いよいよ迫ってきましたね。早速ですが、お二人から、インテリアデザインに関わるようになったきっかけ、そのストーリーをお聞かせ頂けますか。

霜野 (以下:S) 私は高校、大学と建築で、大学卒業してから清家清という建築家のところの研究室に行ったんですね。それでその研究室の先輩たちが桑沢デザイン研究所というところに教えに行っていて、それで僕がそこによく遊びに行っていたんです。それがインテリア関連の人達と知り合うきっかけでした。その中で飯島さんを始め色々な人に知り合い、杉本貴志さんや富樫克彦さん、北岡節夫さんなども親しくさせてもらってました。

飯島 (以下:I) 一番インテリアの活気が「山」になっている時代。

K それって、いつ頃の話なんでしょうか。

S 80年代だね。インテリアデザイン界のスーパースターがいっぱい現れた時代。そういった時代背景もあって、僕もインテリアの人達とも一緒に仕事をすることになって。それで気づいたんだけど、インテリアデザインをする人達の仕事の進め方が、建築とは違うんだよね。建築の場合には建築基準法やその他法令、敷地条件とか自然条件とか、そっちから入っちゃうんだけど、インテリアデザインは「空間」をそのお客さんの要望に対して「どう料理するか」みたいなね。そういった切り口が当時の僕にとってはすごく新鮮でした。

I そもそもインテリアの世界って、思いのほか建築とスポーンと切れているんですね。それはね、日本の行政が産業システムを縦割りにしていることもあるね。

K え、そうなんですか。

I 国交省の下に建築が入っているんだけど、イン



IDM Tokyo 2018
conversation

霜野 隆 (JIPA 会長) + 飯島 直樹 (JCD 理事)

時代の変化と共にたどる、
日本の建築・インテリア
デザインの未来

MODERATE 加藤 愛子 (Houzz Japan 株式会社代表取締役)
PHOTOGRAPH 辻谷 宏 (株式会社ナカサアンドパートナーズ)
TEXT 黒澤 哲 (株式会社 Anonimo Design)

デザインの領域をゆるやかに 繋ぎ、活発化させるIDMとは

テリア (デザイン) はデザインなので経産省のフレームに入っているんです。建築の中にインテリアがあるのは当たり前なんです。

S あの当時は建築家はインテリアデザイナーを受け入れられない時代、っていうかね。

I インテリアは部分だからというので、下に見据えがちだったね。現場のゼネコンの所長なんか「展示屋さん」って我々のこと言ったことがあるなあ (笑)。

K 当時から比べて変わってきていることは何でしょうか、建築とインテリアの境界線のような。

I ジャンルの縦割りというのは未だにあるんですけど、でも世の中はそのように出来てなくて、ジャンルがまぜこぜになっているのが現実で。それで、IDM (Interior Design Meeting) を始めたのは別にインテリアだけで結束する、っていう事はあまり考えていなくて、受発信の窓口がそれぞれの団体に孤立していたりとか、あるいは個々のデザイナーが分断している現状に、もう少し「相互に受発信できる場所を作る」、そんなのに近いんですね。

S 従来、仕事というのは人と会ったり、顔を合わせて話をしながら成り立ってきたわけでしょう。ところが今の人はSNSとか、インターネットとかで仕事



している訳です。クライアントと仕事をすすめていく時に、それはちょっと違うんじゃない？っていうのがあって。人ってもっと繋がらなきゃいけないんじゃない？フェイス・トゥ・フェイスというかね。それで、飯島さんというんな団体の新年会とかに出で交流を呼びかけて。それがまあ、IDMのきっかけかな。でも5年くらいかかったね、言い始めてから。

I IDMっていうのはインテリア・デザイン・ミーティング、まあまずは会いましょうか、っていうところからはじまった。でも141も関連団体があるのも露知らなかったし、顔を合わせるのも初めて、と実はそれくらい離ればなれの状態だったんです。

K そういった状況の中で、IDMの役割ってというのは、どのようなところにあるとお思いでしょうか。

S 今はとりあえず、人と人とを繋げる場、それもフリーで。公益社団法人とか、一般社団法人だとか、そういう団体の集まりになると、たぶん一気にバラバラになっちゃう。

I 団体って、特に公益社団とかになると法律上の縛りだとか行動の縛りも当然出てくるし、それは別に100%悪いことじゃないんですけど、自由がきかない。我々が欲しいのは、もっとこのデザインの領域を、ゆる

やかで良いんだけど活発化させたいということです。そういった団体のしがらみのちょっと外で、フレキシブルに何かを前に進めるプログラムを押し出す、そんなイメージなんです。

S そうそう。だから、それぞれ個人はどこかの団体に入っているわけだけど、このIDMはあくまでもその「個人」の集まりで、それでその人がたまたまJCDにいます、JIDにいます、っていうカタチなんです。個人で出るわけだから縛りがなくて自由。で、しゃべることも自由。出たい時に出て、年に何回かみんな飲んで食べて、いろいろな事を年齢差もなく、酔った勢いでしゃべれる、というような。日本の文化でもある温泉や銭湯そして、大皿料理や鍋料理を皆で箸で突っついて自然に親睦を深めるような。

K まさに飲みにケーションですね。大事ですよね。

I アメリカのニュースや映画なんかを見ると、アクティブラーニングといって、先生がいて周りをグルーッと囲んで学生が足組んじやったりして、みんなが猛烈に発言してるじゃないですか。社団法人の互いの枠を少し外して、そのような場面を作ろう、というのがいわばIDMの目的なんです。

I 例えば加藤さんは、Houzzで住宅デザインを支援するビジネスをされていますが、その活動を広めたい場合、どのようなツールをお持ちなんですか。

K SNSとか、そういったところと似ているんですけども、弊社としてはこのHouzzをコミュニティとして考えているんですね。それで、世界で同じように住まいづくりなどで悩みを抱えている方と…

I はなから世界とくっついたコミュニティというのがすごいなあ。

K そうですね、まさに。それが出来るのが、Houzz内で「写真」という共通言語を持っているからなんですけれども、まさに悩みを持っている方、同じような課題を持っている方が、いろいろな専門家の方とフラットに会話ができる、というところが私達の目指しているところなんです。

I コミュニケーションの道具が革新されて、住宅の様々な場面で双方向的なチャンスが増えたっていうのは大きいですよね。

K そこから、自分らしさを見つけてもらいたい、っていうのが私達の目指しているところなんです。一デザイナーさん、一設計士さんだけではなくて、それ以外の領域ってあるじゃないですか。そういった情報をぶつけ合うことによって良いものが芽生える、という風に私達は考えてまして、IDMとはすごく近いところがあるな、とお話お聞きしながら思っていました。

K ところでIDMを設立されてから、今回のイベントに至ったのはどういった経緯だったのですか？

S 一昨年に、私達が言いたしっぺになり、それに同調した4、5人がいて、それで忘年会をやったんです。そうしたら50以上集まっちゃって。そこでいろんな団体のプレゼンテーションをやったら、全然時間が足りなくなっちゃってね。

K すごいですね。

S それで去年は、もう少し大きく、それぞれ団体の人に声をかけてやろうよ、って言ってここ (東京デザインセンター/五反田) でやったんです。そこで色々な団体のミニセミナーを9個やったんです。そのあとの交流会が、250~270人くらい集まらないと赤字になっちゃう、みたいな心配していたら、約400人も来

ちゃった。

K) すごいですね！

S) それでセミナーも、たぶん一番少ないセミナーで40〜50人、多いところは100人も集まった。

K) へえ〜！

S) これはなんかすごい事だな、って思って。それで今年ね、2018年は何をしようってということで、このIDM TOKYO 2018になったんだけど。

K) すごいですね、それだけ期待があるんですね。

K) ところで、お二方からの、今回のイベントへの期待っていうところではどういう事がありますか？

S) 一つはね、このイベントの実行委員が皆若い人なんです。30代40代がメインになってやってくれていて、それはもう、素晴らしいなと思って。

I) 私は今回に関しては一切口出ししないことにしよう、ってまず決めました。一番大事なのは、最終的なフィニッシュをインパクトあるものにしないといけないので、それを、軸となる40代の人達が自分でやる、ってというのがすごく今回大事なことです。まあまあ面白くなりそうなので楽しみにしています。

K) その若い人たちに、このイベントを通して持ち帰ってほしいこと、って何かありますか。

S) 多分、今IDMに関わっている人達は、ものすごい達成感が出るだろうな、って思います。あと、みんな世の中出てくるのは21、22歳くらいな訳なので、そういう20代、30代半ばくらいの人にもっとこういうイベントに、いっぱい来てほしいな、って思います。

I) 僕が思うのはね、デザインの仕事ってのはビジネスなので、クライアント相手にしないといけないじゃないですか。やっぱりね、産業として成り立つ以上、個人のクライアントも必要だけど、大きい企業、もっと言えば国とか、行政とか、そういうのを相手にしないデザイン産業ってのはダメだと思わなくて。つまり、大きい企業とかを相手にするっていう場面に自分もいるんだ、それだけじゃないと思いますけど、そういう感覚が今は弱くなっている。そういう意味では今回スパイラルでやるっていうのは、そういうニュアンスを少し持つ。そこらのギャラリーでやるっていうのはちょっと違うので。しかも1階のバブリーな場所でやりますよね、それも、今回やる人達にとっては良い巡り合わせなのかな、っていう気がしますけどね。

K) そうですね。象徴的な場所ですよね。それで、イベント後ですね、日本におけるこれからのインテリア業界、インテリアの世界はどういう風に変わっていく



くと思われませんか。

S) 僕はまあ何となく今の流れでいくと、インテリアデザイナーっていうのが、住宅、から商業施設まで完全にメインに関わるような世界になってくるかなって思っています。今の人工の減り方でいくと、例えば家は建っているものをリノベしながら使う、ってなった時に、建築士も多分そういう仕事はすると思うけど、いろいろな人の住まい方だったり、ファッションからなから家の中まで浸透しての中で、これは建築士というよりはインテリアデザイナーの仕事になるんだろうな、って思うんです。

I) 住宅のクライアントの奥さんの目を見てるとね、この辺の1、2メートル範囲が認識世界。壁紙の色、椅子、照明とか。部分の現象世界です。リアルはそこにあるんですね。

K) 完全にその、商業もそうですし、住宅もそうですけど、軸になっているのがインテリアデザイナーなのかも知れないですね。

K) IDM TOKYO 2018のその後の展開はどのように考えていらっしゃいますか。

霜野 隆
TAKASHI SHIMONO

一級建築士・
インテリアプランナー



1950年生まれ。日本工業大学建築学学科、東京工業大学・清家研究室を経て1975年(株)ティ・デザイン・エス設立。以後35年に渡り住宅から商業施設までマルチに活躍する。建材開発による特許所得も多数。2010年より(株)レストMAM HOUSE事業部・部長。現在、日本インテリアプランナー協会・会長、東京インテリアプランナー協会・副会長、東京建築士会・監事、建築技術教育普及センター・理事。

飯島 直樹
NAOKI IJIMA

インテリアデザイナー



1949年生まれ。1973武蔵野美術大学工芸工業デザイン科卒業後、スーパーポットに所属、1985年飯島直樹デザイン室設立。2004-2014 JCD日本商環境デザイン協会理事長、2011-2016工学院大学建築学部教授。代表作に5Sニューヨーク、東京糸井重里事務所、blupondソウル、PMOオフィスビル、工学院大学ラーニングコモンズなどがある。

I) 第二、第三の色んな違ったパターン、発言が出るのを期待したいですね。もっとゲリラ的なやつ。今回のようなやつはなかなか大変じゃないですか、大規模で。そんな大きくなって、小規模でも、こんなものやると、っていうのが出てくると良いと思う。

S) あと、今25団体だけ、今後はそれぞれの団体で、月に一回くらい、セミナーとかを打てたらいいね、って。そうすると違う団体とも繋がるし。あと交流会とか懇親ですね、とにかくいろんなカタチで出ると良いな、って思いますね。

I) JCDではね、ソーダっていう日本中の小学校、中学校でデザインを教えるっていうワークショップをやっている、もう15年近くやってる。

S) 建築士会も都内の小学校とかで、お菓子で作る街づくり、みたいのをずっとやっていますね。

K) なかなか小学校の頃とか若い子供たちから、住環境や空間を意識するっていうことは無いでもんね。

I) ないない。だって学校で図画工作が無くなってしまったでしょ。でもやるとね、子供たちも生き生きするし、親御さんも喜ぶし、あと先生も喜ぶ。

S) 僕らが今、建築を選んだとか、興味を持ったのは、やっぱり体験なんですよ、小学校までの。僕は北海道の片田舎にいて、なんでお前は建築なんか選んだの、って言われるんだけど、やっぱりその頃、工作だとかが好きで、それで絵も好きだったから。

I) 体験しないと分からないからね。家で改装とかすると、それが刺激になって、大学とかに行く。学生に聞くと、そういう経験したことがあるって言うから。でもそういうのだけじゃなくて、こういう団体の活動に参加して、経験すると、良いきっかけになるかも知れないですね。

S) 私はね、いろいろな所に行って学生に言うのは、社会人になったら、必ずその職業に関連する団体があるからそこに入って。車の免許証と一緒に、その知識は持っていても、運転が上手いかどうかってその先じゃないですか。経験しながら上手くなる。だからこそ、関連団体に参加して、自分を磨かないと単なるエンジニアみたいなことで終わっちゃうし、それプラス、他のいろんな関連する人達と交流することで本人の貯金がいっぱいできる訳ですよ。若い時にそれをやって欲しい。こういうジジイを活用してね(指をさして)体は動かないけど知識はある(笑)からね、

I) 指ささないでよ(笑)

S) そう言う人達と気軽に話せる、そこからいろんな事を聞き出せるから、それはその人たちの財産になると思うしね。そこが一番目指すところかな、私は。

加藤 愛子
AIKO KATOH

Houzz Japan株式会社
代表取締役



幼少期を米国で過ごす。シカゴ大学経済学部を卒業後、米国投資銀行ゴールドマンサックスのロンドンと東京オフィスに勤務。2011年にINSEAD(フランス・シンガポール)でMBAを取得後、ビューティートレンドジャパン株式会社の代表取締役に就任。その後、ニューヨークを拠点にベンチャー企業の海外展開に関するコンサルティングを行う。2014年11月より現職。

SEMINAR

セミナーのご紹介 11.30(Fri.)

協力・後援団体の主催セミナーを含めて、下記のセミナーを開催いたします。ぜひ足をお運びください。

会場：スパイラル 9F「スパイラルルーム」

13:00~13:45



IDM / Interior Design Meeting

セミナー 演目 デザイン再起動

セミナー 登壇者名 飯島直樹・江口恵津子・栗山正也・霜野隆・直井英雄(IDM TOKYO 2018)

14:00~14:45



JAFICA / (一社)日本フリーランスインテリアコーディネーター協会

セミナー 演目 エシカルインテリアの話しよう!

セミナー 登壇者名 笠原利恵・富田恵子(JAFICA うちエコ研究会)

15:00~15:45



icon / (一社)日本インテリアコーディネーター協会

セミナー 演目 1.6㎡の至福 もしくは Less is more

セミナー 登壇者名 林柳江・大澤 勝彦(icon)



16:00~16:45



(一社)日本パステック協会

セミナー 演目 その場でサラサラ♪ イメージスケッチ

セミナー 登壇者名 宮後浩(日本パステック協会)

17:00~17:45



JCD / (一社)日本商環境デザイン協会

セミナー 演目 ツキイチ・タカハシ

世界のインテリアデザインは今、どう変わりつつあるのか

セミナー 登壇者名 高橋正明(JCD)

18:00~18:45



JIPAT / (一社)東京インテリアプランナー協会

セミナー 演目 プランナートーク(特別版)

セミナー 登壇者名 パネリストとファシリテーターによるトークセミナー



カーテン生地 | 椅子張り生地 | アクセサリー | レザーウォール | レザーフロア | スtringsカーテン

株式会社 Anonimo Design

<http://www.ad-collection.com>

■ 東京ショールーム 東京都港区南青山6-7-13 ヴィラージュ南青山 601 tel: 03 3797 3904 ■ 福岡ショールーム 福岡市中央区薬院 1-4-8 あづまビル 23号 tel: 092 753 7590

Exhibition Information

展示会情報

zone 01

re: Inspiration

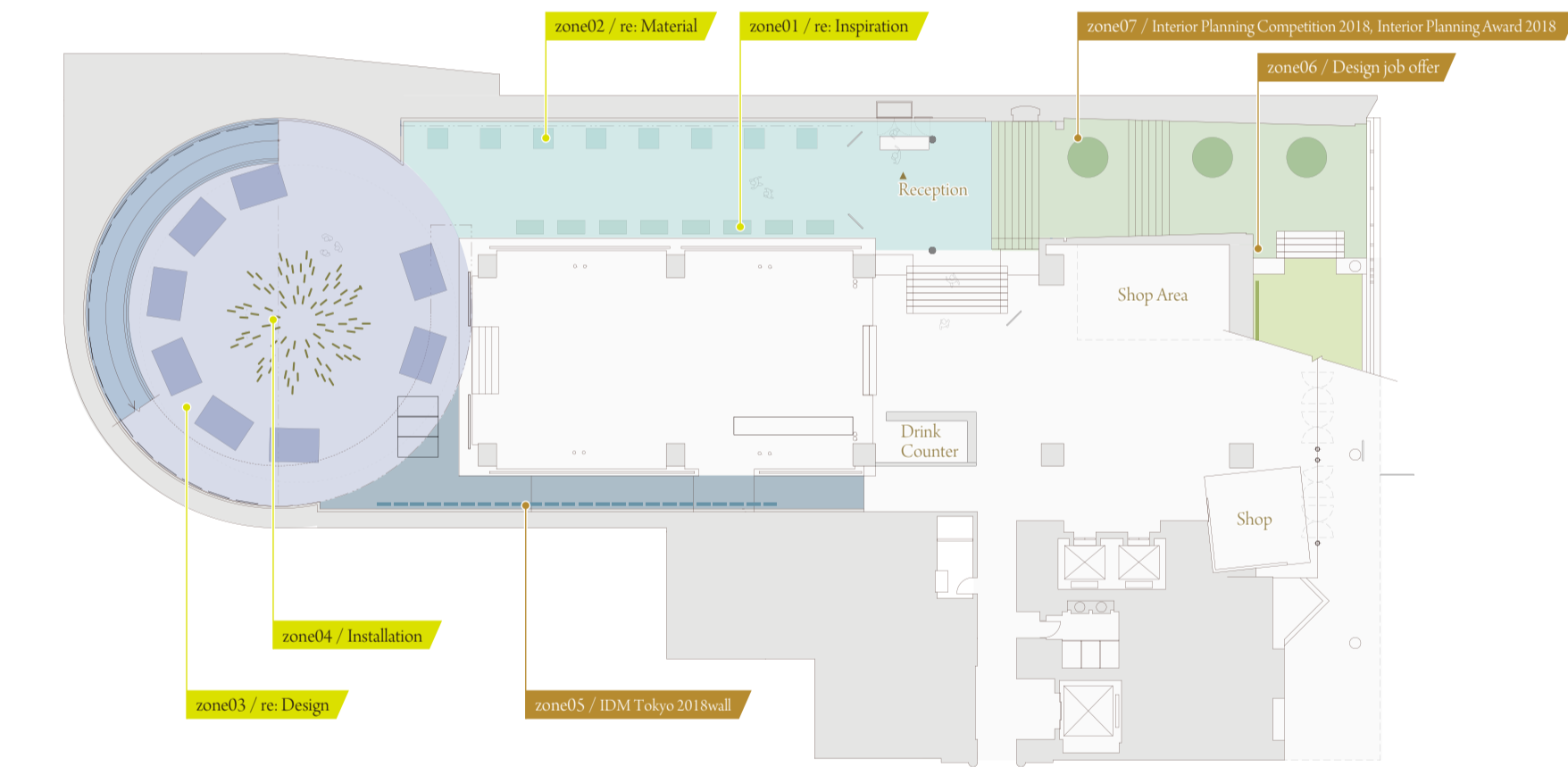
新たな視点から未来のインテリアを提案するエリア



zone 02

re: Material

普遍的デザイン要素から新たな気づきを提案するエリア



zone 03

re: Design

「デザイン再起動」をテーマとしたコンセプトエリア



zone 04

Installation

会場全体を包み込み、結びつける IDM のテーマを具現化



zone 01

re: Inspiration

新たな視点から未来のインテリアを提案するエリア

ZONE 01 001
IDM TOKYO 2018

「IRaum」YOKO FRAKTUR
「IRaum」KAZUKI KUMONO
「フラウム」ヨウコ フラクチャー / 雲野一輝

×

KONICA MINOLTA
コニカミノルタ株式会社



Title: 「文字 × 空間 × 未来」
「空間における文字のインパクトと重要性」に着目し、カリグラフィーの長い歴史において、紙とインクとペンだけの世界から、この時代だからこそできる、手仕事のカリグラフィーと最先端テクノロジーの融合について表現し、世界初となる有機ELによるアートカリグラフィー作品を発表する。文字を読むという行為は光る素材特性にフォーカスし、また光る事で空間における文字の訴求力という本質を視覚的に伝達しやすくなる。「次世代の明かり」の現時点における最高技術は、今後進化が加速してデザインの世界を大きく変えていくと確信する。



ZONE 01 005
IDM TOKYO 2018

JOKE, Inc. RIKI WATANABEUR
株式会社JOKE. 渡辺 力

×

HOXAN
北三株式会社



Title: pray
テーマは「樹木崇拝」。ツキ板の材料となる「木」は長い歴史の中で人類と共にある身近な素材であり、「神木」といった、神聖なもの、神の依り代としての側面ももたせてあります。私はそこに着目し、素材が持つ美しきや特性を最大限引き出すことで、ツキ板を気高く敬かな存在へと昇華しました。



ZONE 01 002
IDM TOKYO 2018

Rubio Iwasaki
Design Office, Inc.
株式会社ルビオ岩崎デザイン事務所

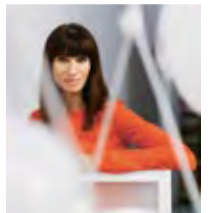


Title: Chaos: 混沌の中の小空間
計画的に詳細をイメージし、サイズを決め制作していく事が求められる空間デザインという仕事において、曖昧さや偶然性はなるべく排除し、秩序がある空間に向けての絞り込みをやっていこうと思いましたが、今回はこういうチャンスにしか出来ない事やってみようと思いました。自由は、手なりに作る秩序や規則性のない混沌としたもの。無秩序な線の集まりは、混沌とした思考のバスのようで、クリエイターが閃きに到達するまでの思考回路の様です。切り取られたような中心の小空間は、そこに眠る「アイデア」や「心」のようでもあります。



ZONE 01 006
IDM TOKYO 2018

BROKIS
ブロッキス



Title: SHADOWS (シャドウ)
時代を超えたタイムレスな照明のフォルムに敬意を払って完成したシャドウコレクションは、4種類の異なるフォルムが存在し、それらを自由に組み合わせるとひとつの空間を作り出す事ができます。ネックの部分は木製になっているので、ガラスに優しい暖かみを与えてくれます。内側に隠された光源はそのフォルムをさらに強調する事でしよう。



ZONE 01 003
IDM TOKYO 2018

I.R.A.
株式会社I.R.A.

×

HYTNOS
ひとのす



Title: im ~ balance
空間を構成するインテリア、内在する建築、それらが均衡した状態が日常の空間を作り出しているならば、それらが徐々にずれてつづつ不均衡な状態となった時、どちらにも相容れない曖昧な空間が生み出される。

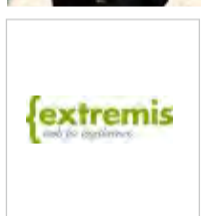


ZONE 01 007
IDM TOKYO 2018

extremis
エクストレミス



Title: Bistrot (ビストロー)
今年4月のミラノサローネで好評だったBistrot(ビストロー)は横並びで会話を楽しめる2人掛のテーブル。ロマンチックな街・パリからヒントを得て生まれたBistrotは、道ゆく人々を眺めながらおしゃべりを楽しむのに最適な形のビクニックテーブルです。今までのextremisにはなかった新しいデザインは「tools for togetherness」を究極的に体現しています。



ZONE 01 004
IDM TOKYO 2018

DOG
株式会社DOG

×

Dio Chemicals, Ltd.
ダイオ化成株式会社



Title: Network thinking
透明でも不透明でもなく半透明。視線を通したり通さなかったり、風は通したり、光は通したり通ったり、何かから守ったり何かを守ったり、思考の中では存在せず物質としては存在する。

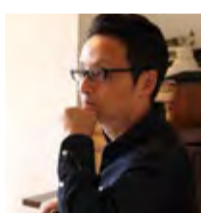


ZONE 01 008
IDM TOKYO 2018

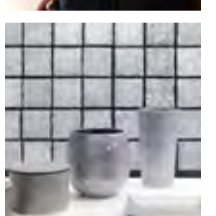
SUPER PENGUIN
スーパーペンギン


×

KINSHODO
金照堂



Title: ARITA/2018
400年の歴史を持つ有田焼。本展示はその有田焼の「可能性」を感じていただくプロジェクトである。有田焼と言えど日本では磁器発祥の地として名高く、「白磁」の印象を持つ方も多いと思う。本出展では、一見して磁器には見えないメタリック感を持つ「Lin」と磁器を製作する際の一工程である「赤絵」をインテリア向けタイルへ変換してみた。「有田焼=インテリアタイル」の印象はまだインテリア界にはない。しかし、この挑戦と可能性を今回の展示会では感じてほしい。





New Model 2018


sofa ERA design: C.O.D.

living table ERA design: C.O.D.


living table ELIPS design: Hidekazu Ashida

lounge chair LUCIA design: C.O.D.

www.arflex.co.jp



カタログ請求はこちら



zone 02

re: Material

普遍的デザイン要素から新たな気づきを提案するエリア

ZONE 02
009
IDM TOKYO 2018
EIRI IWAKURA
岩倉榮利



Title: Takayama Wood Works/high chair

この椅子のシリーズは現代日本における新しいウィンダー・スタイルを「リ・デザイン」という手法によって作り上げたものである。笠木と換物の支柱、H字型の貫をつけた脚のすべてを厚い木座板の上面、下面に取り付ける基本的な技術を土台に現代的かつ日本的編集作業を通じて独自の美しさを確保している。そこに新しい素材と昔を生かす斬新な想像する「ものづくり」の方法があり一方で方から引き継がれてきた様式や技術を時代や地域性、使人々々の特性に従って変化させていくこともひとつのデザイン手法であるという提言である。

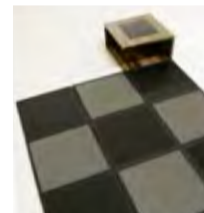
ZONE 02
010
IDM TOKYO 2018
T and O STUDIO
ティアンドオスタジオ



Title: ん -n-

「ん？」「ん！」「んー」「んんん」... 運... hmm「ん」日本語の現代共通語では基本的に「ん」より始まる単語が存在しないとされている。日本語以外の言語においても、「ん」から始まる言葉は少ない。五十音の最後、第48位に置かれる。違和感、疑問、思考... 様々な「ん」という言葉、音から想起されるいくつもの「ん」がこの作品です。

ZONE 02
011
IDM TOKYO 2018
Ma.Cosimo
Ma.Cosimo (デザイナー)
×
sikkui@kuichi.net
漆喰九一(漆喰職人)



Title: 呼吸する壁 土壁、漆喰壁

漆喰職人の漆喰九一とデザイナーの Ma.Cosimo が土壁や漆喰壁でインテリアの新しい素材の試みを挑戦する。今回、ご縁があり漆喰九一の仕事に感銘を受け、Ma.Cosimo が名古屋まで行き来した。漆喰壁の効能は、「湿度、湿度を調整」、「においやほりつきにくく」、「菌を寄せ付けない」等です。土壁に自然素材を加え挑戦中です。Ma.Cosimo のテーマ、日本の伝統的な自然由来の素材とハイテクをHybride / ハイブリッドした壁装材を提案し、自然由来の素材の素晴らしさを誇りたいと思います。

ZONE 02
012
IDM TOKYO 2018
AD CORE DEVISE INC.
NOBORU SETO
株式会社エーアンドエム
副所 昇



Title: NEO CLASSICO 022-MODEL

落ち着きのあるデザインと上質な質感を実現したラウンジチェア。シンプルでデザインの見目ではわからない内側は、人間工学に基づいた快適な座り心地を木フレームに表現しています。その構造とクラフトマンのハンメイトの仕上げが張りのある座り心地を提供します。今回は、その普段は見ることのできないこだわりの構造を展示。美しいもの、時代のトレンドに流されないもの、グローバルな視点をもつもの、永く使う事ができるもの、そして、使う人のこころを満たしてくれるもの。そんな家具を一貫してつくり続けています。

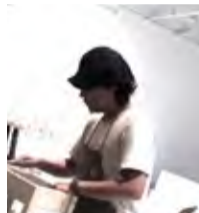
ZONE 02
013
IDM TOKYO 2018
ISETAN MITSUKOSHI PROPETY DESIGN LTD.
株式会社 三越伊勢丹プロパティ・デザイン



Title: 伝統と革新のデザイン × サステナブルな FSC® 森林認証材

環境・経済・社会の3つの側面から適正に管理された木材であることを証明するFSC®森林認証。弊社は合法的に採取された木材を、デザイン性の高い空間 / 家具に取り入れることに力を入れております。今回の作品は、昭和12年に三越家具設計室に在籍していた城所右文次氏がデザインし、当時、三越新作家具展に出品されたバンブーチェアを、デザイン設計部と六郷工場のコラボにより、実験段階ではございますが「古き良きデザインの家具をFSC®認証材を使用して現代に蘇らせる」ということにチャレンジいたしました。

ZONE 02
014
IDM TOKYO 2018
Fizz Repair Works Co.,ltd.
Fizz リペアワークス
×
Anonimo Design corp.
株式会社 アノニモデザイン



Title: Baton the Chair

この椅子はオーナーのドイツ人であるお母様が1928年に日本で結婚し大事にされてきた椅子だ。何度かの修理歴を見るとこの椅子がどれだけ大事にされてきたか分かる。その思い出の椅子は80代になったオーナーが大事に引き継いだ。そんな時代を超えてきた椅子をドイツの Zimmer Rode の生地をまよせポテンシャルを引き出す。次の世代へのバトンを渡すために少しずつメンテナンスを加えながら、再起動。

ZONE 02
015
IDM TOKYO 2018
Anonimo Design corp.
株式会社 アノニモデザイン
×
Fizz Repair Works Co.,ltd.
Fizz リペアワークス



Title: Baton the Chair

長いファミリーストーリーと共に歳を重ねてきたこの椅子は、ドイツで生まれ、遠い日本へやってきたオーナーから次の世代へ引き継がれようとしている。家具のそうした本来の姿を間近に見ることができ、またその歴史的瞬間に関われる喜びを、Fizzリペアワークスの技術とアノニモデザインの素材で表現する。新しいものばかりを見せるのがインテリアデザインの全てじゃない。ここで感じる、目に見えないもの大切にしたい。

ZONE 02
016
IDM TOKYO 2018
ZOUGANISTA di TAKAFUMI MOCHIZUKI
ゾウガニスタ 望月 貴文



Title: 本象嵌と共に蘇る古都フィレンツェのオブジェたち

古都フィレンツェでは今でもたくさんの古いモノが身近にあります。1700年代の本製収納庫。もう使うことの出来なくなった靴の木型。これらのモノに出会った時は埃にまみれて虫食いだけだ。それを修復の技術で蘇らせて現代のインテリアでも馴染むように本象嵌のデザインを入れた。時の経過の魅力と新たなデザインの融合でコーディネートの際も独特のアクセントになります。デザインパーツを制作し古い柱や既存の家具などへの追加装飾も可能です。様々な種類の木目だけでつくられた不思議な世界観をぜひお楽しみ下さい。

zone 03

re: Design

「デザイン再起動」をテーマとしたコンセプトエリア

ZONE 03
017
IDM TOKYO 2018
CYUON × Frank la Rivière Architects inc ×
Frank la Rivière Architects inc ×
フランク・ラ・リヴィエール・アーキテクト
Hiramiya Co., Ltd
ヒラミヤ



Title: Color Float

今回のインスタレーションのコンセプトは、「変形性によって、いかに新たな空間を感じさせることができるか」。楕円形状に配置して内部空間を感じさせながら、エレメントの形状や見る位置による変化、またカラーグラデーション、カラーレイアウトによって変性を表現し、さらには陰陽的なつながりもイメージ。空中に浮かぶ36本のエレメントは、折り紙の様に薄くアルミ板から三次元的な形へと加工し、角度によって四角、三角、それから星の様な3つの形が見て取れる。表面に塗装を施した18色のクリアカラーは、自然が生み出すさまざまな色の一瞬一瞬をカラーパレージョンとして表現。一方、裏側にある、あまいな18色のグラデーションは、地球から空に届く太陽の色変化が意図されている。

ZONE 03
018
IDM TOKYO 2018
SAN-EI × 株式会社三英
TENDO × 株式会社天童木工
FIELD FOUR DESIGN OFFICE
株式会社フィールドフォー・デザインオフィス



Title: Allez!!

合言葉は「PLAY OFFICE !」子どもだけでなく大人も笑顔にする道具をオフィス空間に展開します。くるくるまわる羽の土台、複数人が、うちに向いたり、そに向いたり。3つの羽にヒトが乗ることで生まれるユニークな動きが、創造性・生産性を高め、コミュニケーションを育みます。カチカチになった頭と体をほぐす、遊べるオフィスを創造します。タイトルのAllez!!はフランス語で「がんばれ！行け！」の意味。

ZONE 03
019
IDM TOKYO 2018
SOL style ソルスタイル
×
Madoka.co.Ltd.
まどか株式会社



Title: 氷から振り出したような「ICE MELT SPACE」

今まで SOL style とまどか株式会社は「アイスメルトホテル」、「アイスメルト旅館」と、アクリルを使って「空想の中の世界」を様々なデザインし、実空間として製作し形にしてみました。今回、その様となる「アイスメルト」のコンセプトを具現化し、極厚のアクリルを高い技術力を用いてカット、キラキラと光が反射し、見るものに新しいイメージを与えられる、想像の「余白」をデザインしました。

ZONE 03
020
IDM TOKYO 2018
tomita & co., ltd.
株式会社トミタ
×
A&M co., ltd.
株式会社エーアンドエム



Title: 「時を紡ぐ」

伝統と歴史を重んじ、大切に作られてきた大因州和紙の壁紙。その技術をつくしみながら、一つ一つアーティストの新しい感覚でまた別のものに生まれかわり、昇華していく。新しい感覚と伝統技術が紡がれてまた新たなムーブメントになることを願って... 世界に発信しつづける TOMITA の和紙壁紙。空間にコミュニケーションを手がけるアーティストたち。お互いが大切に行っていることは何か。伝統と新しい事は？ものづくりとアートとは何か。哲学とは何か。融合により新しく生み出されたワクワクを感じてみて頂けたら光栄です。

ZONE 03
021
IDM TOKYO 2018
Rest Corporation
TAKASHI SHIMONO
株式会社レスト MAM HOUSE 事業部 /
デザイン 常野 隆



Title: 「かたつむり」幼児用トイレブース

自然界に直線はなく、建築・インテリア界では、ほとんどが直。直線の世界で生活しています。1年中のほとんどをそれらの空間での生活や活動をしていると、時々逃げ出したくなる。先人達の知恵の結晶、習得して、茶室は、それらを継承し、積み、安らぎ、安堵と言った感覚を生み出せる。幼児や子供に、そのような空間があったらと思ひ、かたつむり形の幼児用トイレブースを提案します。ポリスチレン素材を使い、積層、曲げ、接着(接着)する事で、曲面の曲面パネルを作り、その組合せで、構成されている。今回は、3mm×60mmの素材を積層することで強度も確保、色彩、形状として、厚さも自由にできる。幼児・子供用施設や、水にも強いので、レジャー施設のシャワールーム、トイレ、間仕切り空間など、災害時での避難スペースなど幅広い展開が、期待できる。

ZONE 03
022
IDM TOKYO 2018
JAFICA uchieco
JAFICA うちエコ研究会



Title: エシカルインテリア

国産シートで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている国際目標SDGs... 私たちは、深刻化する環境問題などに全世界が取り組むという壮大なチャレンジに参加します。17のゴールのうち、「作る責任・使う責任」に着目し、活動を始めました。インテリアコーディネーターとしてエシカル(倫理的・道徳的)な環境保全や社会貢献に配慮したインテリアの普及に貢献できるよう、改めてインテリア素材を考え、ひとつひとつのモノに存在する「選択のストーリー」をここに集めて表現しています。

ZONE 03
023
IDM TOKYO 2018
Ikkou+Re-Glass Labo(Nitto)
Ikkou+Re-Glass Labo(積ニット)
×
ABC Trading Co.,Led
株式会社エービーシー商会



Title: 雪花庵・Sekka An

ガラス作家、板橋一広と建築家・インテリアデザイナーの浦一也のコラボレーションによる、雪花硝子(再生結晶化硝子)のお茶室「雪花庵」開業期間中、お茶会を催す予定です。

ZONE 03
024
IDM TOKYO 2018
interior coordinator's organization of nippon
一般社団法人
日本インテリアコーディネーター協会



Title: 「1.6㎡の至福」

北海道の名付け親でも知られる松浦四郎の「一畳敷き」(1886年武四郎が東京の自宅に完成させた畳一枚の書斎)をリスペクトし、今、この時代に解釈する「1.6㎡」という限られた空間で、個人が自分に向き合い、人生を愉しむための空間「至福」を提案いたします。日本人のミニマリズムや陰翳礼讃の美的感覚を大切に、精神性に敬意を払い、和や洋の概念を取り込んだ新しい空間を生み出したしたいと思います。

壁面材に植物のちからを!

珪藻土主体の壁材では、吸収できても再放出を防げなかった有害物質を、植物の持つ抗酸化(還元)作用で無害化。室内の空気環境改善効果は半永久的に持続し、健康維持とストレス軽減に役立ちます。

MOMO+Sは 珪藻土と植物のハイブリッド

珪藻土: 原料の北海道産珪藻土は微細な粒を無数に持つ独特の構造によって、一般的な珪藻土の3~6倍の吸放湿機能を発揮。湿度が上がると吸湿を行い、下がると放湿して、人間が快適と感じる湿度(約60%)を保つように働く、天然由来の調湿機能素材です。これにより、結露やカビ・細菌・微生物の発生、アレルギー性疾患やアトピー性皮膚疾患の発生源となる乾燥状態やダニ繁殖の抑制にもつながることが期待されます。

植物発酵エキス: 厳選された植物から抽出し発酵させたエキス

色粉: 土、岩など天然の鉱物100%を使用

KOTE MOMO+S コチ モモ+S / コテ塗り仕上げ専用

環境性能に優れた北海道産珪藻土を7%配合した贅沢なコテ塗り専用珪藻土塗料。優れた機能性と豊かなテクスチャーが魅力です。

PAINT MOMO+S ペイント モモ+S / ローラー仕上げ専用

施工が楽なローラー仕上げに特化した配合。漆喰ならではの良さはもちろん、MOMO+Sの快適環境を手軽に楽しめます。

販売総代理店 株式会社 MAM HOUSE 事業部 本社工場: 〒424-0057 静岡県静岡市清水区船込345-2 TEL.054-348-1201(代) FAX.054-348-1214 東京支店: 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-21・5F TEL.03-5356-8866(代) FAX.03-5356-8883 <http://www.resttime.co.jp>

カチカチになった頭と体をほぐす、遊べるオフィスを創造します!

visit us at zone 03

PLAY OFFICE

SANEI × Tendo × FIELD FOUR DESIGN OFFICE



special thanks
(有)橋本夕紀夫デザインスタジオ
(株)エーアンドエム
日本回線システム(株)

イベント全体をうごめきながら繋げる、 IDM のコンセプトを体現するもの

会場全体を包み込む、印象的なインスタレーションは、イベント会場デザインを得意とする SOL style が当初案を作成し、その後、インテリアデザイナー橋本夕紀夫氏によってブラッシュアップされたもの。ホテル等パブリックアートを得意とするエーアンドエムの協力を得て、象徴となる作品に作り上げる。



会場デザイン SOL style

IDMの元に集まった沢山のデザイン団体、デザイナー。そして様々な多様なデザイン、時代の異なるデザイン、時代を超えたデザインなど、多くの点が1つに繋がっていく。この先の日本のデザイン、未来のデザインへ。そのようなイメージからリボンで繋がっていく会場デザインを考えました。リボンは空調や人の動きで緩やかに揺れ動き、会場全体に軽やかさとリズムを与え、全体の統一感「繋がる」イメージも生み出しますから。そこから更に橋本夕紀夫さんの「うごめく」というキーワードが加わり、出来上がりに今からワクワクしています。



インスタレーションデザイン 橋本 夕紀夫

「繋がる」という言葉の持っている意味とか、感じ方でいくと、とても有機的だな、と思うんですね。無限に広がるイメージというか、点と点が繋がって、生き物的に線になっていくような。それで、絶えず動いている、うごめいている、という表現を取り入れようと思ったんです。「うごめく」という言葉の連想させる強いインパクトと、うごめくことによって与えるイメージもまたあると思うんです。うごめくなかで繋がる。そこから新しいアイデアが生まれる。そんなイメージかな。蛍光イエローのゴムは、その「うごめいて繋がる」イメージの中で、細くても目立つ、主張する色、という選択。僕の想像するなかで一番強い色。今まで作品の中で使った事の無い色です。



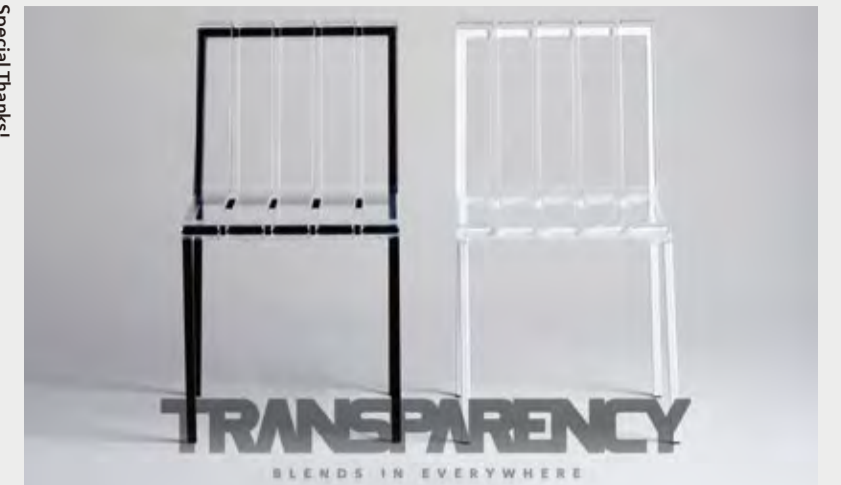
インスタレーション制作 A&M + team ASANTE

今回お話をいただいた時、「はて、どんなことになるかしら。」と未知の可能性に、正直、不安と期待が混在していました。デザイナーが橋本夕紀夫さんに決まり、初打合せの時、「ここにかかわらない人達が引き寄せられるような親しみのある、笑みが出るものがいいよね。」という言葉がとても印象的でした。「親しみやすさ」はアートが大きな存在意義を保つために最も大切な要素の一つであり、私たちが目指していること。そして、「うごめかしたい。」と聞いた時、何か面白いことが生まれる瞬間にワクワクしました。苦手なメカの部分は日本回線システムさんが積極的に協力してくれました。皆で作る上げる、あの黄色い「うごめくもの」が、皆様の心の片隅に残り、それがIDMのこれからの可能性を高める一つとなりましたら、とても嬉しく思います。

Special Thanks!



Special Thanks!



Special Thanks!



Special Thanks!



Special Thank!



www.tda.ac.jp
原宿駅より徒歩3分

学校法人原宿学園
東京デザイン専門学校

STUDIO
IDM 2018 施工協力
DISPLAY
GRAPHIC

株式会社ビコース
03-5654-9500
http://www.becausedes.com/

インテリア界・最長の歴史
第59回 インテリア設計士資格検定試験

試験日=2019年7月6(土)/7日(日)
試験地=全国主要都市

受験資格・・・1級=実務経験が必要(実技+論文)
2級=20歳以上受験可能(実技+学科)
詳細は http://www.jp-interior.or.jp

SJIT 一般社団法人 日本インテリア設計士協会
〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町 1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

カーテン、壁紙、床材、
インテリアをトータルでご提案します。

リリカラ

リリカラ株式会社

〒160-8315 東京都新宿区西新宿 7-5-20
Tel.03-3366-7825 FAX. 03-3366-7853
www.lilycolor.co.jp

IDM バトン

IDM BATOM

IDM TOKYO 2018 開催に向けて、デザイン界を牽引するインテリア関連団体の方々に、IDM TOKYO 2018 のテーマ「デザイン再起動」をキーワードに、文を紡いでいく「IDMバトン」。



一般社団法人 日本インテリアプランナー協会「JIPA」
Japan Federation of Interior Planner's Association
霜野 隆
TAKASHI SHIMONO

一般社団法人 日本インテリアプランナー協会「JIPA」の会長霜野隆氏。IDM実行委員長でもある霜野氏の考える「デザイン再起動」とは。

今年度、青山スパイラルにて、インテリ関連団体での総合イベント「IDM TOKYO 2018」が開催されます。若手、現役デザイナーの提案展示、企業・メーカーとのコラボでの空間展示、各インテリア団体でのセミナー、「IPA 2018」のコンペ表彰、自作を語る、「IPC 2018」作品展示と現場審査、表彰そして、各団体、出展者、デザイナーとの懇親・交流会等のイベント。主催は、IDM TOKYO 2018 実行委員会、主管は、JIPAとして、共催、協賛、後援団体のサポート団体で、25団体(現時点)共有イベントは、日本初となります。このイベントへの共催、協賛、後援そして、IDMへの参加団体も大歓迎です。

さて、IDM って何？と思われる方もいるかと思いますが、昨年度から、いままで、お声をかけさせていただいた建築・インテリアのデザイン系 25 団体の有志が集まり、今後、横の緩やかな連携をとりながら、団体間の相互理解、協力、交流を図る中で、インテリア領域の重要性を社会に発信し、社会資産を造るプロとしての立場を確立するために発足した、新しい動きです。情報等の共有化、セミナー、見学会、展示会等の配信や共同開催、教育機関との連携などを検討していき、インテリア界の活性化と発展に繋げられたらと思っています。そして、若い方々にとっても参加しやすく魅力がある集りになっていけたらと思っています。

※ 01 : インテリアプランニングアワード 2018 ※ 02 : インテリアデザインコンペ 2018
※ 03 : (一社)日本インテリアプランナー協会 ※ 04 : インテリアデザイン ミーティング



JCD
一般社団法人 日本商環境デザイン協会
飯島 直樹
NAOKI IIJIMA

JCD 日本商環境デザイン協会 理事 広報担当の飯島直樹氏。IDMバトン一人目の霜野氏と共に、IDM 実行委員長でもあります。デザイン界の様々な変化を体感し「起動」し続けてきた飯島氏の「デザイン再起動」のとらえ方とは。

IDM の雰囲気

昨日、青山表参道の横路地にある荒川技研のショールームに行ってきました。IDM TOKYO 2018 計画の説明会がそこで行われたからで、西麻布から散歩がてら出掛けたんですね。IDM は昨年より始まったインテリアデザイン領域の連携活動の場です。業界間の壁(同じインテリアデザイン系でも出自や業態が異なり、住み分けがあります)を横断し、セミナーや展覧会、教育場面との協働などを通じて、インテリアデザインを活性化させようというもの。多くのデザイン団体が参加しつつありますが、肩肘張らず緩やかな連携を旨として始まりました。

そうしたら今年、早くも展覧会 IDM TOKYO 2018 の企画が持ち上がりました。テーマが「デザイン再起動」。若い世代のインテリアデザイナーたちの、のびきならない気持ちを感じます。1970-1980 年代にあった日本のインテリアデザインの活性期とは、今は時代が違います。ハイデザインの時代とは異なるインテリアデザインのイニシアチブがあるはずだと思います。しかしそれがどんなものかを顕在化するのとは大変難しくそうです。

ところで、昨日の説明会の会場空間は IDM TOKYO 2018 の気分にとっても似合っていました。RC の建物は大層変わっていて、2 階奥の事務所に通じる通路の天井が 3 階に繋がる吹き抜けの中間に用途不明で孤立する床を形成するのです。階段の踊り場でもなく正規の 3 階の床にもなりきれない、その孤立している床がとてもいい感じで、「再起動」の舞台のようにも見えたのです。もひとつ、その奇妙な床は、IDM の「肩肘張らず緩やかな」雰囲気のようにも見えました。衆を頼まず孤立して、でも肩肘張らず緩やかに企画が進むことを期待します。



インテリア界 準長老 IDM 応援団
インテリア界 準長老 IDM 応援団
栗山 正也
MASAYA KURIYAMA

インテリア界の準長老であり、IDM 応援団でもある栗山正也氏。様々な協会、学会と関わり深い栗山氏の考える IDM の役目とは。

我国で“インテリア”という言葉が使われだしてほぼ半世紀になる。インテリアという意識の芽生えは“室内装飾”などと言われていた時代を含めても 60 年程で、その歴史は浅い。しかし、その間にインテリア領域の職能者は様々な増殖し、様々な職能団体を立ち上げ、それぞれが他者、他団体とは無関係に、我こそがインテリアの専門家だと称してきた。

人々の生活・活動に根差すインテリア領域は広いとは言え、お互いにかぶる部分も多い専門家と、その集団の乱立は、傍から見たら分かりづらく不可解に見える。

しかし、この乱立した専門家集団は、これまでお互いに話し合うこともなく不思議なバランスで共存してきた。果たして、今後もこのままでいいのだろうか。世界に誇れるインテリア文化を目指すなら、先ずこの領域の専門家(職能者)がお互いに話し合い協力して自己矛盾を解消し、新しい地平に向けて皆で声を上げ発信していくことが大切であろう。IDM の役目はその第一歩になることである。



JAFICA
Japan Federation Interior Coordinator Association
江口 恵津子
ETSUKO EGUCHI

JAFICA 「一般社団法人 日本フリーランスインテリアコーディネーター協会」の会長である江口恵津子氏。主婦よりデザイナーとなり、様々なメディアでも多く露出のある江口氏が「IDM」、「ゆるい連携」そして「再起動」から感じたこととは。

自分再起動。インテリアデザイナーの王道の横でせつせと夢を追い続けてきた自分、主婦出身です。ですから、とにかく暮らしを豊かにする仕事をしなく、インテリアコーディネーター(IC)、建築士になりデザインリフォームを実践してきました。時は 25 年くらい前のお話。リフォームはただの営繕とみられ、デザインリフォームって何？という時代。とある、プロジェクトのミーティングで、「面白そうですわね～」と発言した途端に、スタンドカラーの建築士の先生に『江口さん、仕事は面白いだけじゃできないんだよ、まっかつ、、、最後の、、、にどんな言葉が入るか今となっては不明ですが、その不消化が、自分再起動してくれたのかもしれない。

縁あって、日本フリーランスコーディネーター協会(JAFICA)の会長になった頃有名な栗山先生が自分の事務所に来てくださり、うちエコ診断士の情報頂きました。『ICこそ、暮らしにエコを提案できる最先端』などとアドバイス頂き環境問題でも貢献できる職種だと、自分再起動。会長になってからは、懇親会などで、他協会のみなさとお会いすることも増え、IDMバトン一人目の執筆者である霜野さんおっしゃる、『ゆるい連携』に自分再起動。今は青山スパイラルに向けて、若い方々のエネルギーに覚醒しています。

私は常々、彩ある暮らしを構成するのは、波長だと思っています。光、音、色、素材、フォルムからの、波長、そして人同士の気の合う波長。それがうまく整った時、最高の空間が何気なく存在する。青山スパイラルに向けて、『横』と『縦』のゆるい連携が大きなエネルギーの波長になって、覚醒して行きます。波動砲エネルギー、充填中。発達したIDMに乞うご期待。



JCD
一般社団法人 日本商環境デザイン協会 副理事長
永井 資久
TOMOHISA NAGAI

JCD 日本商環境デザイン協会 副理事長の永井資久氏。永井氏のバトン、これから起こることへの期待パワーにあふれています！

「インテリアデザイン・ミーティング」愚直でいいネーミング、意志を感じますね。今回の IDM は、インテリアに関わる方々の連携として、様々な活動を通じて、業界の隔壁を飛び越え、緩やかな連携で活性化させようということで始まりました。今まで何故できなかったのか？何故行動しなかったのか？が不思議なくらい。まさに、今しかできない感じがします。何か得体の知れないものがバンバンに膨らんで.....皆さん、恐らく同じことを思われていたのではよね、一挙にインテリア関連 25 団体の同志が大集結！何ができるか、どこまでいけるか、まだまだこれからが楽しみ。まさに時代が求める新しいムーブメントだと思います。

「デザイン再起動！」連続した空間のデザインですので、当然インテリアデザインの領域は曖昧です。個人的には建築家もインテリアデザイナーもインテリアプランナー、インテリアコーディネーター、インテリアデコレーター、建材メーカー様々に自分の得意分野で活躍し、専門と認識した部分を深く探求していけば良いのではとも思っています。また、建物、内装、家具、カーテン、カーペット、装飾、照明等々、好きな人々、得意な人々が自由にデザインしていける時代です。そこで、今までの概念を取り払い、新たな領域を模索し、連携し、情報交換をしながら更に始動するために、この場があると思っています。まさに、デザイン再起動！そのためにはこれから担当する若い皆さんのパワーが重要な起爆剤となると確信しています。是非、皆さんのパワーを世の中がひっくり返るくらい爆発させてください。「デザインは爆発だ！」であります(笑)



日本インテリア学会
直井 英雄
HIDEO NAOI

日本インテリア学会会長 直井英雄氏。直井氏が感じる、インテリアの始まりと IDM の役割とは。

大げさな書き出しで恐縮なのですが、わが国のインテリアの歴史は明治時代に始まる私は考えております。もちろんそれ以前から、物理的な意味でのインテリアは存在していたわけですが、明治に入って、西欧の文明・文化が怒涛のように流入し、その影響のひとつとして、われわれの使う建物も和風真壁造という制約から解放されたのだと思います。このわが国のインテリアは、戦後の経済成長を追い風に、名実ともに確立されて現在に至るわけですが、残念ながら、わが国にしっかりと根付いたとはまだ言えないように思います。いま立ち上がりつつある IDM は、ここまでの歴史を画し、これからの一歩を推し進める重要なムーブメントになりうるものと、私は大いに期待しております。日本インテリア学会も、同じ領域に属する学術団体として、これからも応援してまいります。



JCD
建築技術教育普及センター 理事
渡邊 均
HITOSHI WATANABE

建築技術教育普及センター 理事の渡邊均氏。長く試験というものに深く関わってきた渡邊氏の考える、資格と「人」の幸せ。

当センターは、国土交通大臣の指定・登録により建築士試験・建築設備士試験、建築士定期講習等を実施している団体です。インテリアプランナー試験は、昭和 62 年から旧建設省告示の認定資格としてスタートし、平成 13 年から民間資格になり、さらに平成 28 年から新制度による試験となりました。この改善内容は、学科試験の受験資格撤廃、学科試験合格者にアシエイト・インテリアプランナーの称号付与、建築士の学科試験免除等であり、試験の「再起動」をさせていただきました。インテリアに関連する資格は、「インテリアプランナー」とともに「インテリアコーディネーター」や「インテリア設計士」などがあります。それぞれが特色を持った素晴らしい資格です。それらの資格者は、社会が求める「安全」「快適」「環境配慮」などのキーワードを様々なアプローチで具現化されている方々です。「人」のためのインテリアを創出するのは「人」です。IDM に参加される各団体の皆さんの緩やかなつながりが、ひいてはそれぞれの立場の「人」の幸せに向かうものと思っています。



公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会 JID 理事長
丹羽 裕之
HIROYUKI NIWA

公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 (JID) 理事長 丹羽浩之(にわひろゆき)氏。丹羽氏は、「つながっていくことの可能性」のバトンを渡してくれます。

公益社団法人日本インテリアデザイナー協会(JID)は 1958 年に活動を開始し、今年で 60 周年の節目の年を迎えます。これまでの 60 年間に時代の追い風もあり、様々な空間デザイン、インテリアデザインの団体が生まれ、現在も人口が減少していく国内において大小様々なデザイン団体が存在しています。

世界がグローバルにシフトし、そして我々自身もボーダレスに個と個が繋がる世の中で、国内の様々なデザイン団体の垣根を超えて、緩やかに個と個、集まりと集まりがツナグっていいことで、きっとそこには未だ見ぬ新たなナナジーと創造が生まれ、日本のインテリアデザイン業界全体の再起動へと繋がっていくでしょう！必然的な運動体「IDM」デザイン再起動！もちろん全面的に応援します！！未知なる可能性へ向かって



JIPA 事務局長 IDM TOKYO 2018 実行委員
戸矢崎 弘美
HIROMI TOYAZAKI

一般社団法人日本インテリアプランナー協会「JIPA」事務局長の戸矢崎弘美氏。様々なことが広がっていく環境創りが大事と考える戸矢崎氏。

一昨年より少しずつ準備を進めてきた「IDM」が、だんだんと大きな形になってきた今、多くの先輩方が、共通の問題意識を持たれていることを実感しました。それは、インテリア界の今後、若手の方々に、どう活躍の場を広げていき、今後を背負っていてもらえる環境をどう創るか？ということです。「日本のインテリア」という認識がはじめて 60 年ほど経った今、ほぼ運慶を迎えたタイミングで「再起動」というキーワードが出てきたことは、必然だったようにも思います。

リセットではない「再起動」とは、過去の英知を引き継ぎ、未来の社会へ投影する。という文節に表されているように、同じ時系列上での分岐点だと思います。この「再起動」をきっかけに、皆さん、感じることもあるのではないのでしょうか。インテリア界、自社、個人、様々な視点での「再起動」があると思います。なぜこの商材を勤めたいのか？なぜ空間を創りたいのか？なぜ自分がこの仕事をしているのか？等々改めて今までの社会への関わり方、これからの社会への関わり方を各々が考えるきっかけであればと願っております。このタイミングで、今までバラバラと活動していたインテリア関連団体が、初めて一緒にになにかしよう！と集結し、同じ方向を向いて動き出したのも「再起動」だと皆、認識しております。

今回の「IDM TOKYO 2018」を通じて、皆さんにとって「再起動」とは何か、を考えて頂き、新たな形で表現できるイベントになれば幸いです。強いては、自社、自分が今までなにを目指してきたか、今後、なにを目指して進むかを再確認できるきっかけとしてのイベントになればと願っております。皆が、一度原点に戻り、これからの若手の方々と共に再起動することによって、今後の活躍の場、環境が大きく広がっていくのではないかと確信しております。このイベントのみならず、今後の「IDM」の活動にもご注目頂き、共にインテリア界を、盛り上げていきましょう。



一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会 執行理事
廣瀬 直樹
NAOKI HIROSE

一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会 (icon) 執行理事廣瀬直樹。廣瀬氏が考える、日本の文化や工芸の再検証の良い機会。

若いデザイナーの方から、『デザイン再起動』というメインテーマを聞いたとき、私はインテリアを中心としたデザイン業界の停滞感と葛藤を感じました。ただこれは我々の業界だけではなく、社会問題、政治問題なのではないのかと考えられます。平和な世の中が 80 年近く続けば、本来文化の華が咲いても良いはずなのに、『再起動』をテーマにすることとは、この混沌とした壁は思いのほか厚く、多くの熱量がないと壊せないことを、本能的にみんな理解しているのだと思います。今、志を同じくする仲間たちが集まりデザインの力で何かを変えようとしている時、その同じ時間、空間に共にいることに感謝します。私自身は住宅設計を仕事としていますが、室内と庭の間にある軒に囲まれた、曖昧な空間の陰影や空気が大好きで、この感覚は、日本に育った私たちの持つ DNA に刻まれた原風景の一部のだと感じています。海外から多くの方が訪れるイベントがこれから続きますが、この機会に、日本の文化や工芸の再検証が必要ではないでしょうか。再起動するためには、何をデザインの基本とするのか？日本に住むデザイナーとして、そのことを見つめなおす良い機会が与えられているのだと思います。日本デザインや東京スタイルという言葉が、北欧デザイン、ニューヨークスタイルのように、普通に使われるようになることを楽しみにしています。まずは第一歩。IDM に期待しています。